

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875201119		
法人名	合資会社けやきの家		
事業所名	グループホーム けやきの家		
所在地	〒651-2124 神戸市西区伊川谷町潤和1355-8		
自己評価作成日	平成22年3月20日	評価結果市町村受理日	平成22年5月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2875201119&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2875201119&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成22年4月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の思いや希望を理解し共成しながら、その日その日をどのように支援したらいかを、介護計画を実践し、モニタリングを行いながら職員間での共有しつつ、入居者一人ひとりが安定し、充実した日々が過ごせるように努力している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅地の中で介護事業所といった概念が全く感じられない概観と内装であるが、安全面では工夫されている。静かにゆっくりと時間が流れる環境の中、本来の地域密着型である地域に根ざした魅力をしっかり活かしている。「けやきの家」が掲げる理念のもとに利用者、管理者、職員が共に暮らし、それぞれが役割を果たし自信を持って過ごされている様子がうかがえ、一人ひとりの尊厳を大切にしたい取り組みがなされている。中でも管理者が訪問看護の経験を活かした医療面での強みがあり、一人ひとりに合った支援が熱心に行われている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場で個々の職員から、大切にしたい事を出し合い、理念を作り実践している	認知症の高齢者であっても地域で暮らし続けることの大切さを理解し、寄り添い尊重し、自立支援を基に、楽しくともに暮らせるような理念を職員とともに作りあげ日々の実践に活かしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、今年度は自治会長として地域住民として関わっている	住宅街の中の一軒の家の住民として自治会にも加入し、地域の行事や草刈等にも参加している。また、開設から7年を経過し、当初からの入居者が半数以上おられ、ご近所の住民とも親しい関係ができ、交流が深められている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の個々の相談などに応じている。民生委員さんからの相談などに応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議で利用者の状況報告を行い、出席者の方々の意見を伺い、サービスに生かすようにしている。	2ヶ月に一度、ご家族、民生委員、近所の方、地域包括支援センターの職員、他のグループホームの管理者等をメンバーに状況報告や意見交換を行っている。地域での消防訓練を提案され、避難訓練を行う等提案してもらった意見を取り入れている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通して協力していただいたり、情報を包括支援センターに聞くなどしている。	地域包括支援センターとの連携や区が主催するグループホーム連絡会に出席し、意見交換を行っている。また、介護保険課や民生保護課等とも連携を図っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員の参加で身体拘束についての学習をし、日常的に実践している。玄関の施錠も日中は行っていない。	玄関は日中施錠せず外に出そうときはGPSをつけてもらい自由に過ごしてもらい職員は安全確認を行っている。ご家族には説明し理解を得ている。職員会議で事例を出し合いケアの不適切が症状につながる事を気づくように学習している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員の参加で高齢者虐待についての学習会をもち、不適切ケアも含め、職員ひとりひとりが注意を払うようにつとめている。	対応方法やケアのやり方で身体拘束や虐待につながってしまう事を職員会議で学習の機会を持ち、職員間で気づきあえるようにしている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が学習会に出席し、職場に伝達している。利用者の状況で活用できるようにしている。	研修に出席し、各職員に伝達研修を行って制度について理解する機会を持っている。現在は制度利用の事例が無いが行政と連携し通帳管理をしている人もいる。	制約が厳しくなる中、制度の理解や情報入手を図り、第三者の目に触れる運営や管理が行えるような取り組みが望まれる。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	今年度は解約、改定は行っていない。過去に行なったときは、家族会や個々に連絡をし、理解していただいた。	契約時や解約時は家族の理解が得られるよう十分な説明を行っている。本人や家族にとって入院時が不安となるため、3ヶ月は確保することを伝え、入院後2ヶ月くらいで相談対応するようにしている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議のときや面会のときに要望があれば伺うようにしている。	面会時や電話連絡で意見を聞くと共に年に1回家族会を開いて、家族同士の交流を図り、防災の補助金の提案を頂き、避難訓練を実施したりしている。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤者会議や職場会議、個々の面談を通して意見を聞くようにしている。	月に一度、職員全員が出席した会議が開かれる。その中で意見交換や個別のカンファレンス、研修等が議題として挙げられる。最近では入浴時の身体介護においてリフト浴の必要性を職員が課題に挙げ、リフトを購入する等職員の意見が反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の身体的不安を考慮し、入浴用リフトや改修工事を行い、職場環境の改善を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎回の職場会議で学習や研修を行い職場の力量アップや外部の講習会に参加し、伝達するようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に参加し、同業者と交流をしたり、同規模のグループホームと相互交流を行なっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度の心入居者はいなかった。		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度の心入居者はいなかった。		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今年度の心入居者はいなかった。		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物・調理・掃除などを一緒にすることで生活を共にする対等な関係をつくるように努力している。		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の本人への思いを理解し、関係がよりよく維持できるように心がけている。		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知り合いの方との関係が継続できるように、ともに外出できるようにプランを立てるなど行なっている。	友人からの手紙や面会に来られる等関係の継続が出来るよう支援している。実現には至らなかったが、入居前からの支援団体の方から花見を誘われ、一緒に行けるよう歩行訓練を計画に上げ取組まれたケースもある。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係に考慮しながら、関係作りが出来るように支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年度は契約修了者はいない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望を重視して支援を行なうように心がけている。	本人の表現が困難な場合、意向を見極められるよう職員のレベル向上のため気持ちを思いやる、受け止めることを職員会議で話し合ったり答えやすいような聞き方をする等把握しやすいような工夫がされている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族になじんだ生活についてお聞きしたり、本人との会話の中で生活環境などを把握するようにしている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりのその日その日の状況に応じて、出来る力が発揮できるように、申し送り等で把握しながら一日の支援をしている		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の中でモニタリングしながら、支援の内容を工夫している。定期以外に本人の状態の変化に対応し、介護計画を作成している。	センター方式を取り入れ、計画は定期的に2ヶ月に一度見直し、職員会議のカンファレンスで課題や対応を検討している。また、状況に変化がある場合には、臨時的な計画書を作成し状況に即した対応を行い、個別に柔軟な対応が出来ている。	現状を維持しながらも職員を担当制にする等現場の職員で計画書を作り各職員のレベル向上を図り後継者作りを目指していかれることが期待される。
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践内容や、気付いたことを記録し、職員間で共有し介護計画をつなげるように工夫している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態により、良いと思われる新たなサービスなども、視野に入れて取り組んでいる。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身体状況により、病院への通院、図書館の利用、ボランティアの方に来ていただいたりしている。		
30	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、家族・本人の了解のもとでかかりつけ医を中心に受診している。他科については、定期的に通院支援をしている。	協力医である内科医が2週間に一度往診に來られ、薬の処方等を受け健康管理を行っている。家族には定期的に報告を行っている。また、必要に応じた通院の支援も行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師と日常的に情報交換しながら、適切な支援が受けられるようにしている。		
32	(15)	入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や治療開始や退院の目途など受け入れ等、病院関係者との情報交換を行っている。	状態が悪くなり入院が必要な時はかかりつけ医から入院施設のある病院を紹介してもらい入退院時の情報交換を行い、かかりつけ医とは日頃から連携できる関係作りを行っている。	
33	(16)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者個々の状態と重度化した場合の支援の内容など、家族と相談し、医療機関と協力して取り組んでいる。	事例として入院時に胃瘻となり家族の意向でホームでの見取りを希望され、双方納得の上での受入を行ったケースがある。管理者が看護師である強みを活かし、かかりつけ医との連携で24時間連絡可能な体制をとり、最後まで職員、入居者として見守る取り組みがなされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当マニュアルを作成して記録を行っているが、すべての職員が出来ていない。		
35	(17)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の緊急マニュアルで避難方法の訓練を行っている。他の災害については、安全面での配慮を行っている。	火災、自然災害に備えマニュアルを整備され地域協力者として5軒の家庭に協力していただける体制を確保し連絡先を明記する等評価できる取り組みである。また、オール電化で喫煙者もなく火を取り扱う事がほとんどなく火災のリスクは低い。	作成されたマニュアルを具体化した避難訓練が定期的実施され、万一の時には被害が最小限に食い止められるような取り組みに期待する。

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩としての敬う気持ちを持ち、声かけを行なうようにしている。否定的な声かけや対応を行わないように努力している。	個々の思いを受け止め否定せず、子供に接するような態度や、やってあげるといった気持ちを持たないよう日頃から職員間で話し合っている。常に入居者も職員も対等な立場を保持し認知症を理解し出来る力を摘み取らないような対応を心掛けている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面の中で、飲み物等本人の希望を把握する努力や意志の決定が出来るような場面作りを行なうようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意志の表出の困難な方に気持ちよい一日が過ごせるように、どのようにしたらいいか配慮しながら支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげそりなど習慣として行なえるようにその日その日に具体的な支援を行なっている。着る物の好みを知る努力をしたり、選んでいただくようにしている。		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日などは本人の好みの献立に変えたり、個々の力や今までしてきた事を生かしながら一緒に準備片付けを行なっている。	個々の状況に応じ買物、調理、後片付け等職員と一緒にやっているが、現在は要介護5の方が半数のため、夕食に宅配を利用し、柔軟な対応をしている。旬の食材を取り入れ、食事を楽しめるよう刻み程度にとどめ、ゆっくり介助にて食べてもらっている。誕生日には特別メニューを考え、水分摂取についても工夫されている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ほぼすべての方の水分量の把握を行い、飲み物の工夫を行なって確保するようにしている。食事の形態など個々の状況に合わせて工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	力に応じて食後の口腔ケアを行なうようにしているが、拒否される場合もあり、できるような工夫が必要。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握しながらトイレ誘導を行なっている。失敗したときは原因を知り、改善方法を工夫する。	入居者それぞれの状況に合わせ、トイレ誘導を中心に排泄の自立支援を行っている。現在要介護2であっても布パンツの方もおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分の摂取、飲み物の工夫を行なっている。トイレでの排泄を極力可能とするように重度の方も座位で行なうように努力している。		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全面的に介助を要する方は、ほぼ決めている。自立や半介助の方は本人の希望を聞き、入浴を楽しむように支援している。	一日2～3人を午前・午後に分け時間をかけゆっくり楽しみながら入れるようにしている。一般家庭と同様の浴室であるが状況に応じ対応できるよう職員の提案でリフトを設置し重度化しても入浴が出来る体制作りをさせている	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人生活リズムをつくり、安眠できて一日を過ごすことができるように支援している。日中の昼寝は必要最小限にするように心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋で作用等を確認できるようにしている。状態の変化への対応など全職員に周知するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の得意や不得意を知り、生活歴を生かした役割を行なえるように心がけている。		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出、喫茶店に出かけるなど、戸外に出かける機会を作れるように支援している。	天気の良い日は近所を散歩したり、デッキでお茶を飲んだり外気浴を楽しむようにしている。家族が面会に来られた時は一緒に外出してもらったり、他科受診のついでに外出を楽しめるよう支援している。	



自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が困難なため、買い物に行くときお金を使用する程度になっている。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり機会はないが、電話で話すことが出来るように状況に応じて支援している。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は入居者が共に過ごす場所として環境(常温、季節感)に配慮するようにしている。その他の空間も生活する場所として心地よく過ごせるように心がけている。	共用の場所は家庭の居間のような雰囲気できゅっくりくつろげる。窓からデッキに出れるようにしてありテーブルセットを設置し自然と触れ合える風景で季節感も十分味わえる。また、温湿度管理もされ、状況に合わせて温度設定をされている。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとは離れた場所でひとりになれるような場所を作っている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人と相談しながら、本人が使いやすいような工夫を行なっている。馴染みのものや好みの空間に家族と相談しながら行なっている。	居室は本人や家族と相談しながら使いやすいよう自由にしてもらっている。使い慣れたものや家族の写真、なじみの物で装飾されている。位牌を持参され、自身で祭られている方もおられる。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせた環境への配慮や整理棚の使い方などわかりやすくするように配慮している。		